



## 活動報告：中央地区里親会 後志研修会が開催されました

★7月27日（土）13時から小樽市いなきたコミュニティセンターにて、平成25年度の後志研修会が開催されました。中央児童相談所から清澤満次長、小樽市福祉部から石崎政嗣子育て支援課長、北海道里親会連合会から沼田好美事務局長が来賓として出席され、太田会長の開会挨拶に続いてそれぞれの方からご挨拶をいただきました。また、後志地区から齊藤康樹さん、石狩地区から門前慶介さんが里親支援専門相談員として出席されました。



◆最初に小樽市福祉部子育て支援課主査の太田道代さんによる「COMMON SENSE・ペアレンティング入門」と題した講演があり、暴力や暴言を使わずに子どもに躰を学ばせる技術としてペアレンティング・プログラム（CSP）が紹介されました。セッション1は「わかりやすいコミュニケーション」のために、①わかりやすい表現を使う、②穏やかに伝えられる環境を作る、③イライラはコミュニケーションの大敵、④子どもにして欲しい行動を具体的に伝えることが大切と話されました。

★次に中央児童相談所の横堀大元主査（里親推進）から、「里親関係業務について」の講演を受けました。児童相談所の新任職員研修で用いられている資料をもとに、里親委託率の状況や里親委託の困難な事例、里親と養護施設の比較、「なぜ適切な里親委託とその後のケースワークができないか」という問題について児童相談所および里親のそれぞれの課題、児童福祉司と主査（里親推進）の業務分担等様々な事例について詳しく説明されました。これまで知る事の少なかった里親および里親制度についての児童相談所の考え方やケースワークについて聴くことが出来て、最初の講演と合わせてとても有意義な研修の機会でした。



◆大人達が研修を受けている間、子ども達はボランティアさん達に引率されて小樽水族館に行ってお楽しみしました。イルカのショーがとても面白かったそうです。17時に研修を終えた後は場所を小樽天狗山山麓館に移して、交流会が賑やかに催されました。子どもはジュースで、大人はビールに喉を潤し、沢山のご馳走と和気藹々のお話で時間があっという間に過ぎていきました。そんな交流会をさらに盛り上げてくれたのがのなさんの歌でした。



☆のなさんは長崎生まれ、現在は寿都町に住んでいるシンガーソングライターで、当日も一緒に来ていた一児（男の子）の母でもあります。いま話題となっているユーミンの「ひこうき雲」や自作の曲を、ギターで弾き語りして素敵に歌ってくれました。こんなに楽しく有意義な研修会を企画し、開催していただいた幹事の赤井さんご夫妻をはじめ、後志の里親さん達に感謝いたします。



今年はいにくに参加できなかった方も、来年はぜひ参加されることをお奨めします。



### お知らせ：平成25年度中央児童相談所・児童福祉司担当地区一覧

既にご承知の方も多いと思いますが、平成25年度の児童福祉司の担当市町村について中央児童相談所から提供を受けましたので、別紙1でお知らせします。改めてご確認いただき、横堀主査（里親推進）ともども、里親制度や子どもの養育についてのご質問やご相談に対応していただけます。

### お知らせ：雨宮児童福祉財団による平成25年度修学助成金申請要項

公益財団法人 雨宮児童福祉財団による平成25年度修学助成金の申請要項が発表されています。平成26年3月に高校を卒業し、大学や専門学校などへ進学を希望される子どもが対象です。返済義務のない入学金が助成されます。要項の概要を別紙2でお知らせしますので、申請を希望または検討される方は事務局までお問い合わせください。先のニュースレターでお知らせした朝日新聞厚生文化事業団による進学応援金の募集（8月23日締切）、および北海道新聞社会福祉振興基金による進学・自立支援奨学金の募集（8月31日締切）と併せて活用されることをお奨めします。

### お知らせ：天使の園「エンゼル祭」について—門前さん(里親支援専門相談員)より

<中央地区里親会会員の皆様>

日頃大変お世話になっております、天使の園の門前です。例年はない暑さに見舞われていますが、いかがお過ごしでしょうか。さて、天使の園では今年度も「エンゼル祭」を9月23日（月）に行います。例年、中央地区里親会の皆様にもボランティアとして参加していただいております、今年度もぜひよろしくお願いいたします。思い連絡させていただきました。こちらの都合で申し訳ありませんが、**8月末日**までに人数を連絡して頂きたいと思っております。ボランティアではなく、当日「お客様」としてお越しいただいても構いません。ぜひご検討お願い致します。（門前慶介 石狩地区里親支援専門相談員）

### お願い：里親制度の推進に関する要望事項をお寄せください

北海道地区里親会連絡協議会（会長は寺山正吉北海道里親会連合会長）は毎年、北海道に対して「里親制度の推進に関する要望」を提出し、制度の改善と推進を働きかけています。今年も各地区の里親会に対して要望事項を提出することを求めています。中央地区里親会の会員の声を反映させたいと思っておりますので、里親制度についてご意見やご要望がありましたら、ぜひ**8月25日**までに事務局まで手紙やFax、電子メールなどでお寄せください。

ちなみに昨年度の要望事項は①給付型奨学金制度の創設、②自動車運転免許取得に対する助成制度の創設、③就職支度費および大学進学等自立生活支度費の増額、④高卒後も自立できない子どもに対する保護期間の延長、⑤二人目以降の里親手当を一人目の手当と同額に、⑥一時保護委託の手当の増額、⑦高校生の教材費および通学費、部活費、学習塾の月謝の増額などがあり、一部は改善の実現がありました。

子ども達のより良い生活のために、皆さんの声をまとめて制度の改善と推進を求めていきましょう。

**子育て情報：魔法の言葉ー毎日イライラ子育てが一転、ニコニコ笑顔になりました**

インターネットを見ていたら、YOMIURI ONLINEの「発言小町」というページに次のような記事がありました。日々の子育ての参考になるのではと思いましたので転載いたします。

6歳、4歳、3歳の双子、息子4人の母親です。双子に重い病気と知的障害があります。夫は仕事でほぼ不在。双子の病状悪化が理由で1月に仕事を辞め、今は専業ですが毎日障害児の施設に母子登園しています。字数制限で書けませんが、とにかく毎日バツバツ。イライライライラ、怒ってばかり。子供に怒鳴るのは毎日、時には手が出ることもありました。

「子供がかわいくない」と思ってしまう自分に罪悪感を感じ、寝顔を見て泣き、イライラしすぎて頭痛がし、長男に当たり散らし、「どうにかなりそう」と毎日言っていました。

私が怒るから家の中も暗いし、イタズラも増え悪循環。子供が欲しくて産んだけど、子供がいるだけでありがたいけど、双子が難病抱えながらも生きていてくれるだけで感謝だけど、毎日そう思いながら子供と向き合う余裕はありませんでした。

そんなとき…

テレビ番組で関根勤さんが言っていた言葉が私を救いました。

「(子育て中は)子供をいかに笑わせるか。そんなことばかり考えていました。お風呂に入る前にお尻を壁から突き出して振ったりとかね。」って。(こんな感じの内容)

それで早速その日にお尻突き出し(笑)をやってみると子供たちが大笑い。4人全員が笑顔になったんです。あ、なんだこんな簡単なことなんだと目からウロコ状態でした。

それからは子供をどう笑わせるか?と思いながら子供たちと向き合うように努力しました。

「生きていてくれてありがとう」と思いながら向き合うのは無理でも、「笑わせてやろう」と思いながらは意外と簡単。

続けていたら子供たちもとても良い状態になりイタズラも減り毎日が幸せで楽しくなり、今は子供がかわいくて仕方がないです。

数ヶ月前が嘘みたい。そんな魔法の言葉、知っていたら教えてください。

**お願い：会報の編集を手伝っていただける方を募ります**

中央地区里親会の会報「わらび」は今年で第37号を迎えます。これまで編集を担当していただいた倶知安町の永江さんがご高齢のために退かれましたが、後任が決まっていません。事務局と一緒に編集作業を手伝っていただける方を求めています。里親支援専門相談員の方にもお手伝いいただくことを予定していますが、会員にもぜひ里親会の仕事の一端を担っていただけますようお願いいたします。

あなたの笑顔が見たいから

中央地区里親会



## 本の紹介：里親:娘に贈る愛 少女の物語出版（毎日新聞 2013年08月02日）

全国里親会のメールマガジンに、東京の竹中さんが毎日新聞に「少年剣士なつか」の紹介記事を掲載していました。とてもいい本ですので、当里親会でも会員の皆さんに紹介いたします。

乳児院から養子に迎えられた女の子をモデルにした小説「少年剣士なつか」（パレード刊）が出版された。養子であることに葛藤を抱きつつ、里親の愛情を知り自信を得ていくストーリー。自身も女の子の里親である作者あいだひささん＝東京都＝は「養子という事実は隠すことでも恥ずかしいことでもない。どんな子もありのまま受け入れられる世の中になってほしい」と話す。

主人公は小学4年生の女の子、なつか。幼い頃からチャンバラ好きで、道場で殺陣を習う活発な性格だ。3歳の時、里親から養子であることを伝えられた。親子になれてどんなに幸せかなど、何度も聞かされてきたが、ある時学校で名前の由来を作文に書くことになり、周囲と自分の境遇の違いに悩む。しかし、養子に來たばかりの頃、里親を困らせる「試し行動」で何をするにも大泣きして嫌がったのに、里親が全てを受け入れて向き合ってくれたというエピソードを聞き、その愛情を知る。そして、「全部あったから今の自分がいる。他人がどう思おうが関係ない」との祖父の言葉に自信を取戻す。



あいださんは2009年に絵本「たからものはなあに？」でデビュー。「なつか」は2作目。現在中学生の愛娘が小3の時に執筆し、小4の時に読み聞かせたものをベースにした。

娘は毎日新聞のキャンペーン記事「あなたの愛の手を」を読んで、養子に迎えた。娘が3歳の時、養子だと告げる「真実告知」のために絵本を書いた。以降、成長とともに変化する悩みに合わせてメッセージを送ろうと、出版の2冊とは別に、誕生日の度に手作りの絵本をプレゼントしてきた。娘も自分の境遇を親友に打ち明けるかどうか、悩んだ時期があったという。

あいださんは今回の本に、「あなたはあなたのみままでいい。自分であることに自信を持って」というメッセージを込めたという。価格は1300円（税別）。

問い合わせは家庭養護促進協会（06・6762・5239）まで。【大沢瑞季】

「少年剣士なつか」の前編となっている「たからものはなあに？」（偕成社・1,260円）は、作者自身が育てる養女への告知のために描いた絵本です。「なつかはたくやくんと、うちでたからもののみせあっこをしました。それをみながら、ママたちが、ちいさいときのおもいでをかたります。うまれたときはなし…なつかはたくやくんとちよっとちがいます・・・」。一般書店にも売っていますので、本書と併せて読んでみたらいかがでしょうか。会員の皆さんからも紹介したい良い本がありましたら、ぜひ図書情報や感想文などを事務局までお寄せくださるようお願いいたします。